

2009年8月6日

2009年度(2010年3月期)

# 第1四半期連結決算資料

## 株式会社 山武



本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることがあります。

\* 数値は表示単位未満四捨五入しております

オートメーションって、ひとをシアワセにできるんだよ

## 第1四半期決算の特徴

- 昨秋来の景気低迷、設備投資の凍結・抑制の影響から売上高は減少し392億円(前年同期比94億円、19.4%の減少)となる。
- ビルディングオートメーション(BA)事業、ライフオートメーション(LA)事業への影響は比較的軽微なもの、アドバンスオートメーション(AA)事業は国内設備投資の減少および海外景気後退の影響を強く受ける。
- 売上減少の影響は大きいものの、体質強化・経費削減に取り組み、営業損失は26億円にとどめる(前年同期は1億円の営業損失)。
  - ▶ azbilグループの売上は第2四半期会計期間及び第4四半期会計期間に集中する傾向があります。このため例年第1四半期会計期間及び第3四半期会計期間の利益は、他の四半期会計期間に比べ低くなる傾向にあります。

※ 過去3年間の四半期毎の売上、利益の推移については11ページ参考資料を参照

## 連結業績予想について

- 2009年5月8日公表の業績予想を据置く。

# 2009年度(2010年3月期) 第1四半期経営成績



創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション

## <3ヶ月推移>

単位：億円

	2008年度				2009年度		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	対前年同期	
						増減	%
受注高	760	627	473	457	665	△ 95	△12.5%
売上高	486	628	475	772	392	△ 94	△19.4%
売上総利益	171	237	175	284	130	△ 41	△23.9%
売上総利益率	35.2%	37.7%	36.7%	36.8%	33.2%	△ 2.0	
営業利益	△ 1	67	△ 0	112	△ 26	△ 25	—
営業利益率	△0.2%	10.7%	△0.0%	14.5%	△6.6%	△ 6.4	
経常利益	2	65	△ 3	109	△ 25	△ 26	—
税引前利益	1	62	△ 3	105	△ 26	△ 27	—
当期純利益	△ 2	36	△ 4	66	△ 20	△ 17	—

※ azbilグループの売上は第2四半期会計期間及び第4四半期会計期間に集中する傾向があり、一方、固定費は恒常的に発生するため例年第1四半期会計期間及び第3四半期会計期間の利益は、他の四半期会計期間に比べ低くなる傾向にあります。

# ビルディングオートメーション(BA)事業



創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション

- 受注は堅調。売上は、国内新規ならびにサービス事業は堅調に推移したが、既設ならびにセキュリティ分野における投資先送りの影響、海外新規の減少により小幅減収。
- 損益は、減収の影響ならびに事業拡大に向けたサービス事業へのaGグループ内の人員シフト等により営業損失額が拡大。当期から新事業領域拡大のため米国ベンチャーを連結子会社化。

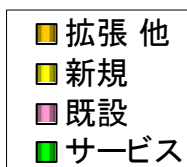
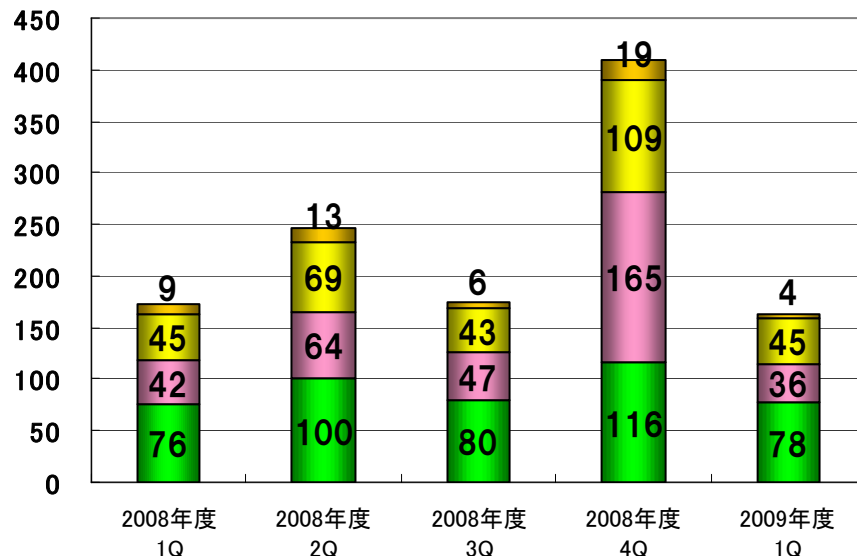
## <3ヶ月推移>

単位：億円

	2008年度				2009年度		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	対前年同期	
						増減	%
受注高	393	242	176	172	399	6	1.5%
売上高	173	246	175	409	※ 163	△ 10	△6.1%
営業利益	△ 1	35	4	93	※ △ 9	△ 8	-
営業利益率	△0.8%	14.1%	2.5%	22.7%	△5.5%	△ 4.7	-

※ 工事進行基準の影響は、売上高1億5千1百万円、営業利益3千9百万円の増加。

【売上】



- **新規:**  
新設の建物向けにBAシステムの販売・施工を行う事業
- **既設/サービス:**  
BAシステムの改修、メンテナンスおよび建物設備管理までを行なう事業
- **拡張他:**  
セキュリティ(入退出管理)事業等

# アドバンスオートメーション(AA)事業



創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション

- 売上は、ほぼ全産業における国内設備投資の大幅減少および海外市場の縮小により大きくダウン。
- 損益は、aGグループ内での人的リソースの大規模な再配置による固定費削減や徹底した経費支出抑制により、減収の影響を軽減。

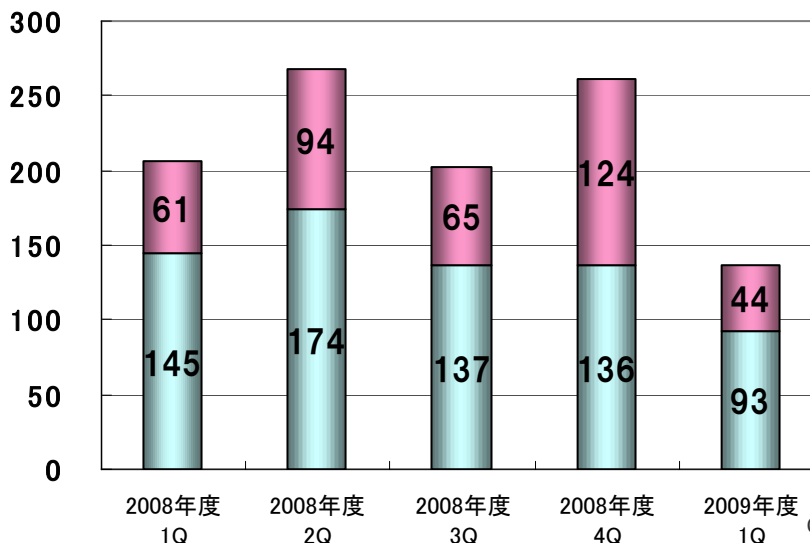
## <3ヶ月推移>

単位：億円

	2008年度				2009年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	対前年同期	
						増減	%
受注高	249	278	203	196	155	△ 94	△37.6%
売上高	206	268	202	261	※ 137	△ 69	△33.7%
営業利益	1	33	△ 2	17	※ △ 17	△ 18	-
営業利益率	0.7%	12.2%	△0.9%	6.7%	△12.4%	△ 13.1	-

※ 工事進行基準の影響は、売上高5百万円、営業利益2百万円の増加。

## 【売上】



- SS(ソリューション・サービス): システム製品の販売、メンテナンス等のサービス提供を行う事業
- プロダクト: 各種のセンサ、バルブ等の販売を行う事業

# ライフオートメーション(LA)事業

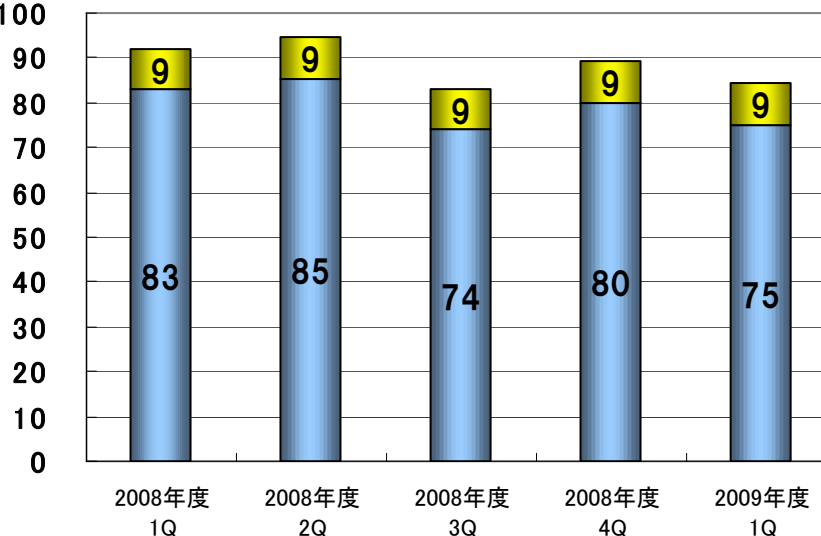
- ガスメータの更新需要及び産業用都市ガス機器の販売が景気悪化の影響を受け、LA事業全体の売上は8%の減収。
- 減収となったものの、利益体質の強化が進み、営業利益は黒字に転換。

## <3ヶ月推移>

単位：億円

	2008年度				2009年度		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	対前年同期	
						増減	%
受注高	101	93	82	83	95	△ 6	△5.7%
売上高	92	95	83	89	84	△ 8	△8.3%
営業利益	△ 0	△ 0	△ 2	1	1	1	-
営業利益率	△0.4%	△0.5%	△2.1%	1.1%	0.7%	1.1	-

【売上】 100



■ ライフアシスト  
■ ライフライン

■ ライフアシスト：  
ケアサービス、緊急通報 他

■ ライフライン：  
ガス・水道メータ等の販売(金門製作所)、  
環境リサイクル事業(山武)他

# 国際事業（海外売上高）

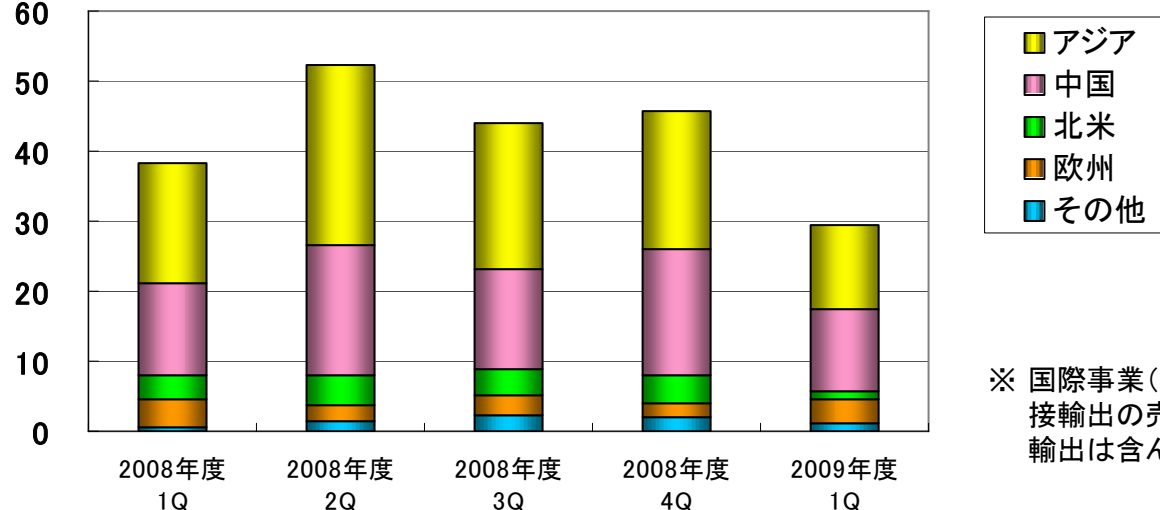
- 世界同時不況と為替の影響により円ベースでの売上は前年同期比△23%の減少。

## <3ヶ月推移>

単位：億円

	2008年度				2009年度		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	対前年同期	
						増減	%
アジア	17	26	21	20	12	△ 5	△28.9%
中国	13	18	14	18	12	△ 1	△11.4%
北米	4	4	4	4	1	△ 3	△70.9%
欧州	4	2	3	2	3	△ 1	△13.3%
その他	1	2	2	2	1	1	93.3%
計	38	52	44	46	29	△ 9	△23.1%

【売上】 60



※ 国際事業(海外売上高)は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。

# 連結財政状況サマリー



創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション

単位：億円

	2008年度		2009年度	増減 (B) - (A)		2008年度		2009年度	増減 (B) - (A)
	1Q	(A) 4Q	(B) 1Q			1Q	(A) 4Q	(B) 1Q	
<b>流動資産</b>	<b>1,561</b>	<b>1,610</b>	<b>1,438</b>	<b>△ 171</b>	<b>負債</b>	<b>966</b>	<b>959</b>	<b>828</b>	<b>△ 131</b>
現金及び預金	322	379	427	48	流動負債	763	787	657	△ 130
受取手形及び売掛金	685	748	550	△ 198	仕入債務	390	360	289	△ 70
棚卸資産	273	212	245	32	短期借入金／社債	145	147	146	△ 1
その他	281	270	216	△ 54	その他	228	281	223	△ 58
<b>固定資産</b>	<b>645</b>	<b>599</b>	<b>619</b>	<b>20</b>	固定負債	202	171	170	△ 1
有形固定資産	292	298	295	△ 4	長期借入金／社債	44	22	22	△ 0
無形固定資産	91	83	90	7	その他	158	149	148	△ 1
投資その他の資産	262	218	235	17					
					<b>純資産</b>	<b>1,240</b>	<b>1,250</b>	<b>1,229</b>	<b>△ 20</b>
					株主資本	1,183	1,238	1,195	△ 43
					資本金	105	105	105	-
					資本剰余金	172	172	172	0
					利益剰余金	912	987	944	△ 43
					自己株式	△ 7	△ 26	△ 26	△ 0
					評価・換算価額等	44	△ 2	19	22
					少数株主持分	13	14	15	1
<b>資産合計</b>	<b>2,206</b>	<b>2,208</b>	<b>2,057</b>	<b>△ 152</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>2,206</b>	<b>2,208</b>	<b>2,057</b>	<b>△ 152</b>



# 連結キャッシュ・フロー



創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション

単位：億円

	2008年度				2009年度		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	対前年同期	
						増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	48	59	△ 37	143	28	△ 20	△41.9%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 20	△ 82	△ 43	△ 22	13	33	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 23	△ 8	△ 45	△ 11	△ 28	△ 5	-
現金及び現金同等物の増減額	△ 0	△ 28	△ 126	105	16	16	-
現金及び現金同等物の期末残高	492	465	338	443	459	△ 33	△6.6%

# 2009年度 連結業績予想

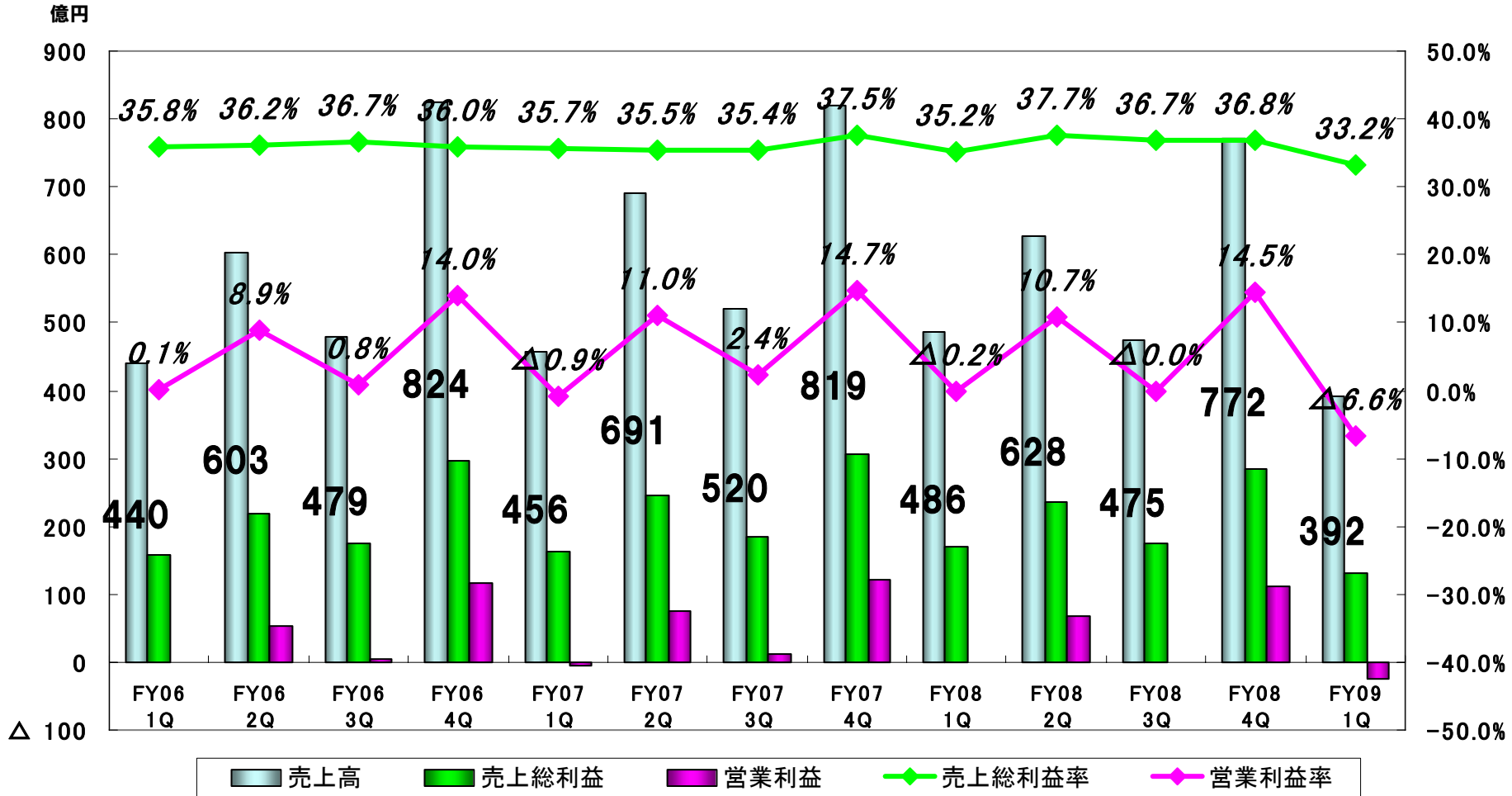
- 期初の業績予想(2009年5月8日公表)は据置く。
- 一部市場で回復の兆候がみられるものの設備投資全般は低水準で、不透明な事業環境が続いており、今後の環境変化を慎重に見極めていく。
- 業績改善に向け、経費支出の抑制、体質強化に引き続き徹底して取り組む。

単位：億円

	2008年度				2009年度			
	1 Q 実績	2 Q 実績	上期 (2 Q累計) 実績	通期 実績	1 Q 実績	2 Q	上期 (2 Q累計) 予想 2009/5/8	通期 予想 2009/5/8
売上高	486	628	1,115	2,362	392		985	2,175
営業利益	△ 1	67	67	178	△ 26		25	115
経常利益	2	65	66	172	△ 25		24	113
当期純利益	△ 2	36	33	95	△ 20		5	60

# 【参考】売上・利益・利益率の推移

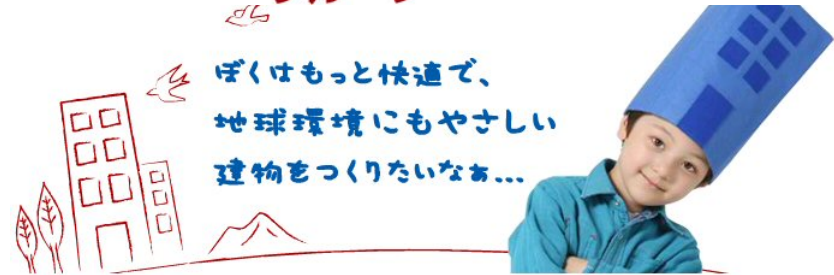
## <3ヶ月推移>



※ azbilグループの売上は第2四半期会計期間及び第4四半期会計期間に集中する傾向があり、一方、固定費は恒常的に発生するため例年第1四半期会計期間及び第3四半期会計期間の利益は、他の四半期会計期間に比べ低くなる傾向にあります。

**azbil**  
グループ

創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション

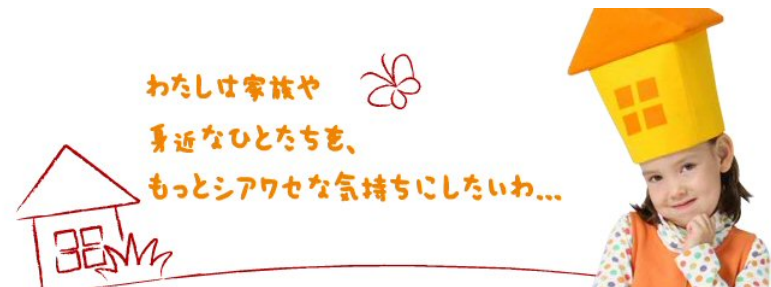


ぼくはもっと快適で、  
地球環境にもやさしい  
建物をつくりたいなあ...

azbilグループは、  
「人を中心としたオートメーション」で、  
人々の「安心・快適・達成感」を実現する  
とともに、地球環境に貢献します。



ぼくは安全で、  
ひとが生き生きと働ける  
工場をつくりたいなあ...



わたしは家族や  
身近なひとたちを、  
もっとシアワセな気持ちにしたいわ...

株式会社 山武